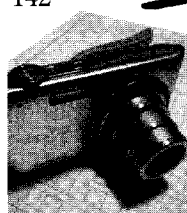




その
142

写日記

松元ヒロ
写文



「元号は憲法違反だ。令和は無効である」と国を訴えた、元号訴訟第一回口頭弁論が五月三十一日、東京地裁で行なわれました。原告席には北原賢一氏と、写真右だけど右が大嫌いな矢崎泰久氏。写真左の山根二郎弁護士が座っていました。正確に言うと、山根氏は座る間もなく二五分間喋り続けました。一時間前に傍聴席に座った私。この裁判の前に二つの裁判があり、どちらも二分から三分で終了。そしていよいよメイインイベントが近づくと、五〇席くらいの傍聴席が満席を超えて立ち見となったのです。係員が「立ち見は出来ませ

るので、ご協力を」と退出を促すのですが、我が山根弁護士は「裁判は公開というのが大原則なんです。私から裁判長に言いますから」と説得。そして、入廷した裁判長は立ち見の傍聴席を見てビックリ、「立ち見は出来ませんので……」と言葉は柔らかいが態度は硬い。しかし、山根さんは「裁判長、この日のために山口県から来た人もいるんですよ。公開裁判が原則です。ここに椅子がある。これをあそこに」と粘りました。結局、退出となった人々を背に山根氏は「法廷の闇だ！」と叫びました。私は感動して涙が出そうでした。

「今回は大きい法廷で」と裁判長に約束させ「それでは、次回……」と第一回口頭弁論が終了。廊下で待っていた人に裁判の趣旨と経過を丁寧に説明したあと、まだ話し足りない二人と一緒に神保町の「ラドリオ」へ。勝つか負けるかではなく、信念を貫くかどうか。「元号は天皇の在位の時間を生きさせるといふことだ。令和は使わない。西暦で生きる」と頑固な二人。矢崎さんは八六歳。「山根さんは？」と聞くと「昭和一一年生まれの八二歳『昭和？』いけない、言っちゃった。でも、令和は拒否する」と突っ張る二人。カッコイイ！

超過を直撃し、日本の年金・生活保障を根底から覆してしまおう。

消費増税どころか、20年オリパラも大阪万博すら雲散霧消してしまいかも知れない。今や世界経済は待ったなしの危機に直面している。ノンキにしているのは、バカ安倍ひとりとする。赤字国債を国民に押し付けても、国際社会の信用は完全に失われるに違いない。戦争でチャラに出来るほどの力量はもともと日本にはない。退陣前のトランプが何を仕掛けてくるか、これほどの恐怖は他にあるまい。

中国とロシアが、世界危機をどう捉えるか。世界中が、ほぼ真つぶたつに割れるなら、人類も地球も終わるだろう。

まだ不安要素がないわけではない。大気圏と地上・地底には、天変地異が起る要素ばかり。ことに日本のような地震国では、何が起るか分からない。火山は脈動している。幾重にも重なる海底のトラフでは、なまこが眠りから何時覚めるかわからない。マグニチュード8以上の地震が日本列島を襲う確率は高い。

取り巻きの集めて、高級居酒屋でオダを上げてる場合ではあるまい。令和という、気味の悪い時代は、明日終わっても、何の不思議もない。新天皇皇后の笑顔に不安な影を見ているのは、私だけではあるまい。世界は五里霧中の真つ只中にあり。

金曜日から

▼今週号の「写日記」で松元ヒロさんが書かれている「元号差し止め」訴訟の第2回口頭弁論の期日が決まったのでお知らせします。9月2日(月)の11時、東京地裁103号法廷です。

5月24日号の「金曜日から」で第1回口頭弁論は(地裁522号法廷)傍聴席数を100と書いてしまいました。実際は45席でした。お詫びします。ですが、30人以上が傍聴席後方に立っている(普段はない光景です)法廷に入ってきたときの裁判官の表情はなかなか見ものでした。

80人を超える方々の結果があり、山根一郎弁護士、矢崎泰久氏、北原賢一氏がどれだけ心強かったか。それは山根弁護士の裁判長に対する強い要求にも表れていたと思います。本誌をお持ちの方も見受けられました。ありがとうございました。

閉廷後、隣の弁護士会館1階ロビーで急遽行なわれた「報告発表会」は3重にも人の輪ができ、その真ん中で山根弁護士は30分以上にわ

たり裁判への思いを語られた。昼時でもあり、立ち止まるひとも多く警備員が出てくる始末。

司法はこの裁判の争点をあやふやにし、早期結審を狙っているようにしか見えません。次の103号法廷の傍聴席は今回の倍以上です。空席にするわけにはいきません。どうかさらなる参集をお願いいたします。(土井伸一郎)

▼今年度から中学校でも「道徳」が教科化された。中学校の「道徳」教科書を出版しているのは8社で、これらすべてに載っている物語に「二通の手紙」というものがある。概要はこうだ。ある動物園で定年退職後も臨時で働いていた元さん。ある日、入園時間が過ぎて門を閉めようとしていると、いつも門の柵から園内を覗いている小学3年生くらいの女の子と弟がやってきた。この日は女の子が園料を握りしめていて、弟の誕生日だから入れてほしいと懇願してきた。入園時間が過ぎていて、小学生以下の子どもは保護者同伴が規則だったが、2人の気持ちを汲んだ元さんは、早く戻るように言いつつ特別に中に入れた。ところが閉園時間に2人は戻ってこず、園内職

員をあげて一斉に探す事態に。結局、日暮れ間近に2人は無事見つかり、後日、母親から謝罪とお礼の手紙が元さんに届いた。ただ、事務所からは解雇通知の入った手紙が渡された。元さんは「この二通の手紙のおかげでまた新たな出発ができそうです」と晴れ晴れとした顔で職場を去っていった。

不可解なのは、この物語が「法や決まりの意義」の項目であることだ。解雇処分が適当か甚だ疑問であるにもかかわらず、元さんは晴れ晴れと受け入れていて、法や決まりを守る「正しさ」がことさらに強調されているように感じる。「道徳教科化」の自身をよくよく見ていく必要がある。(渡部睦美)

▼週末、川崎市登戸で発生した通り魔殺傷事件の現場に花を手向けに行った。事件発生から10日以上経過しているにもかかわらず、静かに祈りを捧げる人が何人もいた。この日は秋葉原通り魔事件から11年にあたることを帰郷して知る。空に向かつて、亡くなられた方々のご冥福をお祈りした。

厚生年金受給世帯で平均月5万5000円、30年間で2000万円収入が不足するという金融審議会市場WG報告書の数字が波紋をよんでいる。そんなに貯金できないよ、と個人的にはため息。

6月10日、テレビ中継された参院決算委員会総括質疑でのやりとりだ。小池議員(共産)が問いたですと、背広の

編集長後記

ボタンをかけながら安倍晋三首相が答弁に立つ。首相「平均値を果たして出すことに意味があるのかどうかという点も議論しなければいけないわけございません。……苦し紛れに数字自体を陳腐化する。小池議員「平均の数字を出してきたのは政府ですよ。……だからあなたたちの議論に基づいて私は指

摘をしているんですよ。呆れて問い返す小池議員。その姿を隣席から見上げ、同意するかのようになさく顔しているのは、あの西田昌司議員(自民)じゃないか。

小池議員によると不足分は教養娯楽費と交際費。平均値で前者は月2万5000円。本誌の毎月の購読料は……身が引き締まる。(小林和子)

「週刊金曜日」からのお知らせ

業務部から5月の営業報告

『週刊金曜日』5月31日(1234)号現在の定期購読の保有部数は1万3068部です(先月末の時点から69部減少)。このほかに「生協」や「富士山マガジンサービス」等の定期購読、取次店への納品等を積み上げると、本誌の部数は約2万5000部となります。ただしこれは実売ではありません。週刊誌の売上げは年々厳しくなっており、本誌の場合、取次納品の約半分が返品になるのが実情です。こうしたなか5月17日(1232)号はモニター書店の実売が、久しぶりに6割を超えました。亀石倫子弁護士の表紙で目を引いたこと

に加え、実のところ「警察の闇シリーズ」は「売れ筋」の定番でもあったのです。5月3日には東京・有明防災公園で行なわれた「憲法集会」にブースを出店し、バックナンバーや「9条Tシャツ」を販売しました。当日は6万5000人が参加、来場した読者の皆さまから励ましの言葉をいただき、そのお陰かここ数年来、最高の売上となりました。また当日「10名限定!本誌6週間プレゼント」の抽選チラシを配布しています。当選された方は、引き続きのご購読をぜひよろしくお願いいたします。業務部長 町田明穂

ず私達の前にあつて、「蒙(まが)ねエナ」ということを言い続けている。政府は「国民の代理」なのだ、とあらためて思う。(本田政昭)

週刊金曜日

SYUKAN KINYŌBI 2019
第27巻第22号・通巻第1257号
2019年6月14日発行
定価580円 [本体537円]
株式会社金曜日
東京都千代田区神田神保町2-23
アセンド神保町3階 〒101-0051
電話(代表) 03-3221-8521
(編集部) 03-3221-8527
FAX 03-3221-8522

編集人 小林和子
発行人 植村 隆
印刷者 金子真吾
印刷所 凸版印刷株式会社
©2019 SYUKAN KIN'YŌBI
Printed in Japan
(禁無断転載)
ホームページ http://www.kinyobi.co.jp/
メールアドレス henshubu@kinyobi.co.jp
編集部 gyomubu@kinyobi.co.jp